

平成 26 年 1 月 20 日
行政改革推進会議

平成 25 年における行政事業レビューの取組と今後の課題について（案）（概要版）

1. 各府省における取組体制

（課題）

- 外部有識者の点検やレビューシートの記載が不十分など、行政事業レビューの取組体制が十分に整っていない府省が見受けられた。

（対応の方向性）

- 官房長等が責任者の行政事業レビュー推進チーム(以下「チーム」という。)自ら厳格な点検・指摘を行う体制を強化し、その具体的取組について、4 月上旬公表の各府省の行動計画に位置づけ、改善を確実なものとするべきではないか。

2. 外部有識者の点検

（課題）

- 一部府省の外部有識者においては、十分な検証なしに問題ないとしていると思われる事例や、同じ指摘を多数の事業にしている事例などが見受けられた。
- 対象事業の選定について、外部有識者から、規模の大きな事業を対象とすべき、外部有識者も関与したほうが良いなどの意見が示された。

（対応の方向性）

- 外部有識者に期待される役割の明確化・徹底、十分な外部有識者数の確保など、効率的・効果的な点検のための体制の充実が必要ではないか。
- 外部有識者の指摘事項は、具体的な改善点に関する意見等が積極的に記載され、事業所管部局がその指摘に的確に対応するようチームが仲介・調整をすべきではないか。
- 外部有識者の点検対象事業の選定はチームが行っているが、外部有識者から意見聴取を行うなど、選定の考え方について外部有識者の理解を得て行うべきではないか。

3. レビューシートの記載

（課題）

- 事業目的、成果指標・活動指標、単位当たりコスト、類似事業、基金・交付金の使途の記載が不十分な事例が多く見受けられた。

（対応の方向性）

- チームが中心となってレビューシートの記載の充実に取り組むべきではないか。事業の効果や効率化が経年でどの程度進んでいるかわかるように記載すべきではないか。

4. 公開プロセスの取組

(課題)

- 公開プロセスに参加した外部有識者から、対象事業の選定理由、外部有識者の事業検証の姿勢、進行役の議事運営、公開プロセスにおける選択肢や外部有識者のとりまとめ方法に関して、改善に向けた様々な意見が示された。

(対応の方向性)

- 対象事業は、各府省の外部有識者からの意見の聴取などを行い、公開の場で検証を行うことが有効と判断されるものが選定されるべきではないか。
- 進行役(チーム長等)は、質疑がバランスよく進行するよう外部有識者に促すとともに、具体的かつ定量的で、的確な回答を事業所管部局に促すことが必要ではないか。
- 「秋のレビュー」等の指摘事項に対する各府省の対応状況を踏まえた公開プロセス対象事業に関する事務局の関与のあり方や、公開プロセスにおける選択肢、外部有識者のとりまとめ方法について検討を行うことが必要ではないか。

5. 行政改革推進会議による点検

(対応の方向性)

- フォローアップは、公開プロセス対象事業の決定やレビューシートの公表などの機会を捉え事務局において行い、行政改革推進会議に報告を行うべきではないか。
- 事務局では、各府省の取組を把握し、問題がある場合には府省ごとに改善に向けた取組を引き続き求めるとともに、必要に応じ、チームの責任者を集めた会合を開催し改善を要請すること等が必要ではないか。

6. 基金シートの作成

(対応の方向性)

- 「秋のレビュー」で指摘がなされた、①アウトカム指標の明記、②保有割合の算出根拠の詳細な記載、③基金設置府省による定期的な検査と結果公表、④地方自治体に造成された基金の情報公開や点検のあり方の検討、などの点について、平成26年の基金シートの改善に向けた具体化が必要ではないか。

7. レビューシート等の作成・公表

(対応の方向性)

- データの集計や分析など加工が行いやすいレビューシート等の作成・公表の手法を構築すべきではないか。

8. レビューの取組の基盤強化

(対応の方向性)

- 若手職員の研修や、効果を出している優れた取組を積極的に評価する方法について検討すべきではないか。
- 国民への意見募集などを通じ効果的・効率的な周知・広報に努めるべきではないか。
- 各府省の事務負担にも配慮しつつ、より効果的・効率的な取組となるよう、引き続き、積極的な改善に努めていくべきではないか。